

西二葉町校舎を卒立つた考古学者 林良幹

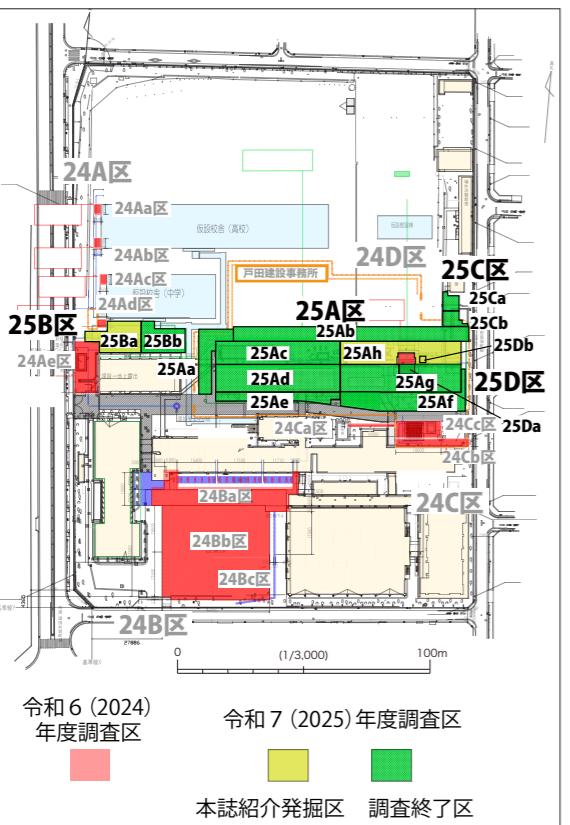
西二葉町遺跡では、二カ年にわたる調査で、愛知県立第一中学
校（以下、「愛知一中」）関連の遺構・遺物がまとまって見つかり
ました。この学校ではどのような人材が輩出されていましたのでしょ
うか。ここでは、考古学に關係して、林良幹はやしよしもとを紹介します。

林良幹は、海軍大軍医にもなった林良泰の嫡子として、現在の清須市で生まれました。明治三十九年に愛知一中に入学、五年の課程を経て、明治四十四年に卒業します。明治四十三年に西二葉町の校舎が完成しますので、その初期に当地で学んだようです。その後、当時の私立國學院大學国史科を卒業後、山階宮菊麿王の（はやしよしやす）第三男子、藤麿王（ふじまろのおう）（後に臣籍降下して、筑波藤麿）（つくばふじまろ）の傳育係とな

愛知県埋蔵文化財センターでは、西二葉町遺跡を始めとする発掘調査の成果を広く情報発信し、貴重な国民の共有財産である埋蔵文化財の保護に努めてまいります。

皆様におかれましても、引き続き埋蔵文化財保護への御理解と御協力を、よろしくお願ひいたします。

(センター長 伊藤尚巳・調査課長 堀木真美子)



西二葉町遺跡 24区・25区 調査区位置図

西二葉町遺跡発掘通信

№.14
令和7年
12月号

西二葉町遺跡の調査成果の展示について
とても貴重な調査成果となつたこともあり、

昨年度から始まりました発掘調査が、十二月上旬までに完了いたしました。調査期間中、明和高等学校・附属中学校の皆様、近隣の皆様並びに工事関係の皆様には、様々な面で御迷惑をおかけし、申し訳ありませんでした。その中でも、昨年度は水道管の破損により、学校運営に多大な支障を生じさせたことにつきまして、あらためてお詫びいたします。

にかけていく二かのイベントに登場する予定です
機会があれば、是非、お越し下さい。

とても貴重な調査成果となつたこともあります。今後、各所での展示企画などが計画されています。企画は出土遺物の展示のみならず、調査担当者による成果報告の企画もあるようです。

準備ができ次第、隨時、愛知県埋蔵文化財センターのホームページでのご案内を予定しています。

早速、今年の十一月下旬以降から来年度の初め

林 良幹 年表（「清須城懐古録」より）						
和暦	西暦	月	日	数え歳	できごと	
明治 25	1892	1	28	1	現在の愛知県清須市で生まれる	
明治 39	1906	4	8	15	愛知県立第一中学校入学	
明治 44	1911	3	22	20	愛知県立第一中学校卒業	
大正元	1912	9	11	21	私立國學院大學 予科 入学	
大正2	1913	7	7	22	同予科終了、大学部国史料 入学	
大正5	1916	7	7	25	私立國學院大學 大学部国史料 卒業	
大正6	1917	2	6		私立錦城中学に奉職	
		3	22	26	山階宮に奉職、藤麿王殿下付 (傅育係)を命ぜられる	
大正8	1919	5	20	28	結婚	
昭和3	1928	11	30		筑波侯爵家研究部 【筑波家国史研究部】調査事務嘱託	
		12	1	37	筑波侯爵家研究部 【筑波家国史研究部】主任	
昭和4	1929	9	5	38	愛知県立明倫中学校教諭に任せられる	
昭和11	1936	3	31	45	病気により職を免ぜられる	
昭和16	1941	10	13	50	名古屋帝国大学附属病院で死去	
昭和18	1943	5	25		『清須城懐古録』出版・刊行	



清須城懷古錄

西二葉町遺跡 24区・25区 調査区位置図

令和6(2024)年度調査区

令和7(2025)年度調査区

本誌紹介発掘区 調査終了区

西二葉町遺跡の調査成果の展示について

とても貴重な調査成果となつたこともあり、今後、各所での展示企画などが計画されています。企画は出土遺物の展示のみならず、調査担当者による成果報告の企画もあるようです。

準備ができ次第、隨時、愛知県埋蔵文化財センターのホームページでのご案内を予定しています。早速、今年の十二月下旬以降から来年度の初めにかけていくつかのイベントに登場する予定です。機会があれば、是非、お越し下さい。

西二葉町遺跡発掘通信

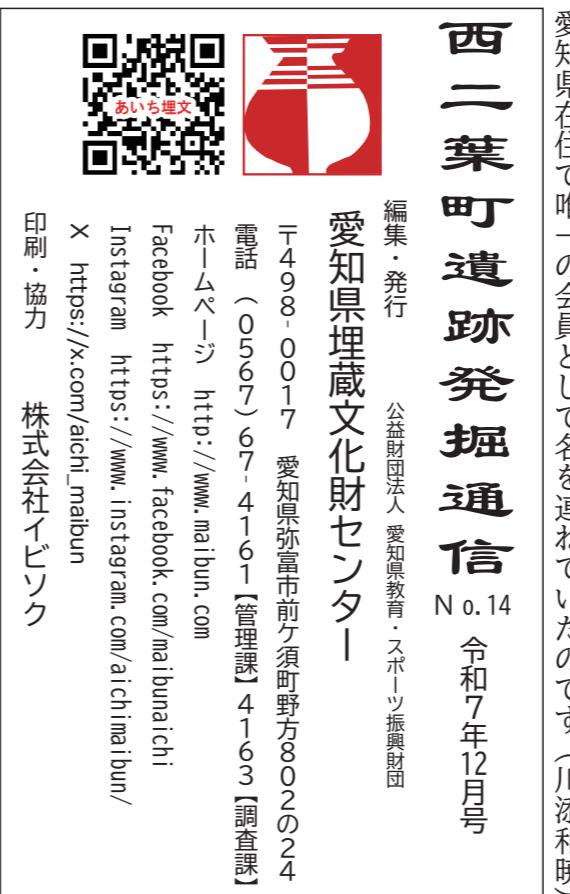
N 0.14 令和7年12月号

編集・発行 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802の24
電話 (0567) 67-4161 【管理課】4163 【調査課】
ホームページ <http://www.maibun.com>
Facebook <https://www.facebook.com/maibunaichi>
Instagram https://www.instagram.com/aichi_maibun/

印刷・協力 株式会社イビソク

病気のため職を辞し、昭和十六年に数え歳五十で亡くなりました。明倫中学校の教諭となります。明倫中での教員生活は七年ほどで研究部を設立すると、林はほどなくして愛知県に戻り、愛知県立明倫中学校の教諭となります。明倫中での教員生活は七年ほどで林の存在は、国史学を志した若き藤麿王の人生に大きな影響を与えることとなりました。林自身も父良泰の影響を受けて、清須城の研究に精力を注いでいました。それは、二百頁をも超える『清須城懐古錄』となつて、死後、関係者によって出版刊行されました。本書は、戦国時代の清須城を、文献史料のみならず初めて史跡としての総合研究を行つた画期的なものとなりました。また、東京帝室博物館内にあつた考古学会（現在の日本考古学会の前身）のほか、公爵・大山柏が主宰する考古学研究会である史前学会では愛知県在住で唯一の会員として名を連ねていたのです。（川添和暁）





25Ba 区 2面目【近世整地層上】全体 (東から)
江戸時代成瀬家の屋敷地の盛土の最上面で見つかった遺構で、近代以降の構造物がまとまって確認されました。



レンガ積み枠の検出状況 (右) と、枠底面から出土した遺物 (中: 小皿、左: 骨製歯ブラシ)



25Ba 区 3面目【近世整地層下】全体 (上が北)
江戸時代成瀬家屋敷地関連の柱穴や井戸が確認されました。



25Ba 区 3面目【近世整地層下】完掘状況

調査区西側では柱群が多く見つかり (左)、東側では井戸のまわりに大きな地下室と思われる大型土坑が広がっています (右)。

25 Ba 区 発掘調査の成果

25 B区は、仮設中学校校舎と食堂の間の調査区です。前号の東半側 (25 Bb区) の成果に続けて、今回は西側 (25 Ba区) についてお伝えします。上から、一面目・二面目・三面目と進めました。

近代以降の整地層の調査をした一面目では、牛乳瓶やどんぶり鉢など、食堂関係の資料がまとまって見つかりました。県立第一高等女学校以降のものと思われます。二面目とした近世成瀬家関係の整地層上面の調査では、近代以降の学校関係の構造物がまとまって見つかりました (左上写真)。特に、レンガ枠のある水路は地中に土管を配して雨水などを流したもので、修繕の際に土管を外し、瓦片や三和土片を詰めることも行つたようです。枠の中からは陶器片とともに、骨製の歯ブラシも出土しました (写真左下)。



25Ag 区 1面目 愛知一中基礎【明治時代】(北東から)
明和高校北校舎基礎の下から見つかりました。レンガ積みとコンクリートによって作られています。奥は明和高校の校舎。



25Ag 区 1面目
愛知一中基礎
【明治時代】

基礎のそばには土管とコンクリートの枠によって作られた排水施設も見つかりました。

それより下層の二面目・三面目は江戸時代の成瀬家の屋敷跡です。特に屋敷地の東の外れにあるこの地点では、ごみ穴である大型土坑が多数見つかりました。出土した土器は19世紀を主体とします。この調査区で見つかったごみ穴は、使わなくなつた土器をます。特に屋敷地の東の外れにあるこの地点では、ごみ穴である大型土坑が多数見つかりました。出土した土器は19世紀を主体とします。この調査区で見つかったごみ穴は、使わなくなつた土器を

が、予想以上に良好な残存状況で、広い面積を調査しました。それより下層の二面目・三面目は江戸時代の成瀬家の屋敷跡です。特に屋敷地の東の外れにあるこの地点では、ごみ穴である大型土坑が多数見つかりました。出土した土器は19世紀を主体とします。この調査区で見つかったごみ穴は、使わなくなつた土器を

が、予想以上に良好な残存状況で、広い面積を調査しました。それより下層の二面目・三面目は江戸時代の成瀬家の屋敷跡です。特に屋敷地の東の外れにあるこの地点では、ごみ穴である大型土坑が多数見つかりました。出土した土器は19世紀を主体とします。この調査区で見つかったごみ穴は、使わなくなつた土器を



25Ah・Db 区 大型土坑①
赤褐色の色調が特徴的な常滑焼の甕



25Ah・Db 区 大型土坑②
皿や茶碗、徳利が集中して見つかりました。



25Ah・Db 区 井戸の断面【江戸時代】

捨てていたようです。常滑焼の甕が丸ごと捨てられたごみ穴や、徳利や茶碗がまとまって捨てられていたごみ穴が見つかっています。

近世整地層下の三面目では、成瀬家の屋敷建物関連遺構調査を行いました。何回も建て替えられたことを示す柱痕跡がまとまって見つかったほか、井戸が二基確認されました。そのうち一基は三和土で枠組みされたもので、今回の調査時に埋まつていなかつたことから、少なくとも明治時代以降も使用されていた可能性があります。また、大型土坑は掘り込みが浅く、当時、半地下式の倉庫であつた可能性が考えられます。(川添和暁)

熱田層は熱田台地を形成するかたく締まつた黄色～白色の砂層で、それと比べて江戸時代の整地層は柔らかく、黒褐色です。調査では江戸時代の整地層が接する部分にだけ赤茶色の粘土で井戸を補強している様子を確認しました。江戸時代の人々が、井戸を崩さないよう、工夫したのだと思われます。(柳原麻子)

の下の熱田層を掘りぬいてま
ル以上の井戸が見つかりま
した。井戸は江戸時代の整地
による堆積(整地層)と、そ
のほかに、深さ二メート
ル以上の井戸が見つかりま
した。井戸は江戸時代の整地